

事業のタネシート

活動地域・団体名：越前市イノベーション研究会

事業名称 1：オープンイノベーションの拠点づくり（先端産業×伝統産業×スマート）

あらすじ

南越駅周辺のまちづくりのテーマ『地域特性を活かした（フォレストシティ）未来都市の創造（越前市版スマートシティ）』の実現のため、地域の強みであるモノづくり産業と伝統産業を融合させ、スマート技術とかけ合わせたオープンイノベーションの実現による新たな産業の創出を図ることを目的に、各事業者間をつなぐ情報交流拠点、商品開発拠点づくりを行う。
新たな商品開発により、雇用創出など地域課題を解決し、商品の地域内調達など、地域経済の循環につながる。

ストーリー

越前市にはモノづくり産業と伝統産業という新旧の技術があり、それぞれが地域に根差している。
南越駅周辺はこれから未来に向かってまちづくりをゼロからスタートする。これからのデジタル化社会への対応として、モノづくり産業と伝統産業をスマート技術インフラ（5Gエリア、デジタル、再生可能エネルギー）とかけ合わせ、個々の企業の差別化、経営力強化とともに、オープンイノベーションを実現することで、新たな産業づくり、新たなまちを目指す。
その新たな産業、新たなまちの情報交流拠点、商品開発拠点とすることで、地域全体の魅力向上、地域の誇りの醸成につなげていく。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	立地するあらゆる産業や施設、場面あるいは事業展開過程において未来的なチャレンジを進めるまち（越前市版スマートシティ）。	拠点づくりにおけるヒト・モノ・カネについて、既存のふくいオープンイノベーション推進機構や商工会議所などの産業支援団体を中心とするが、初期段階では行政や既存同業者団体の支援が不可欠である。初期の体制をどのような形態にするかは検討課題である。
②課題	デジタル化への対応、オープンイノベーションによる新領域への展開、脱炭素社会への対応、魅力ある雇用の場の創出、産業間の連携、世代交代・事業承継。	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	地域特性を活かし、モノづくり産業、伝統産業の間で連携し技術を融合させることで、新たな産業の創出を図る。	
④地域資源	電子・機械・化学・繊維産業が根付いている、技術を取り込む先進性、若者の技術力、伝統工芸の集積、伝統の技術力、地域に根差した企業。	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	スマートシティのシティプロモーションによる企業誘致、AI、ビッグデータ等のデジタル技術を活用した情報収集による「越前市らしさ」の商品開発、販路開拓、都市企業とのビジネスマッチングなど。	
⑥担い手（Who）	ふくいオープンイノベーション推進機構や商工会議所を中心とした地域事業者のネットワーク。	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	新たな産業の創出→雇用の拡大・若年層の定着・外部人材の流入→技術交流の活性化→新たな商品開発→新たな販路→都市企業とのビジネスマッチング→地域経済の活性化→地域全体の魅力向上、地域の誇りの醸成。	産業支援団体 行政 既存同業者団体・組合
⑧事業で生じる成果	個々の企業だけでなく、地域の企業同士が連携し新たな産業を創出することで、魅力ある雇用の創出による消費拡大や商品の地域内調達など、地域経済の循環につながる。	

事業名称 2 : 体験型観光への誘導 (観光・交流×スマート)		
あらすじ		
地域の強みである伝統産業 (越前和紙、打刃物、越前筆筍) とスマート技術をかけ合わせ、伝統産業の観光施設・情報発信・商品開発の充実を図り、地域全体の魅力向上につなげる。		
ストーリー		
伝統産業は地域に長く根差しており、それぞれの産業で体験型施設や展示施設をもつ。しかしながらスポット的であり、横の連携が薄い状況である。新幹線新駅の設置と丹南地域の地理的中心、玄関口である強みを活かした取組みを行う。観光産業、地域の伝統産業事業者とスマート技術をかけ合わせ、ビッグデータやAIに活用による観光流動・購買行動の可視化から新たな商品開発や、また、既存の体験型施設への誘導を図り地域の魅力を最大に伝えることにより、地域、来街者のファンを増やし、伝統産業の高付加価値化、地域全体の魅力向上、地域の誇りの醸成につなげていく。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	人の手と自然を感じその背景にある歴史・文化を感じるまち (フォレストシティ)。	伝統産業事業者それぞれが観光分野に協力を得られるか、ヒト、モノ、カネに加えて、マインドの形成。
②課題	伝統産業間の連携が薄い、PR不足 (魅力を伝えきれていない)、通過型観光。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	新幹線新駅開業を契機として、地域の歴史、自然、伝統産業など地域資源を活かし、滞在型・周遊型観光への誘導を行い、地域の魅力向上に取り組む。	
④地域資源	伝統産業、1500年の地域の歴史、自然・景観、風土、伝統産業の既存施設、新駅開業、丹南地域の玄関口、交通結節点。	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	新幹線新駅に隣接する道の駅へ伝統産業体験施設に誘導するPRブースの設置、工房等とのオンラインVRによる疑似体験から体験施設へ足を伸ばしてもらい、直接、制作を体験してもらうことで、地域の伝統産業を肌で感じてもらう。	
⑥担い手 (Who)	越前市観光協会や伝統産業の同業者団体・組合の組合員 + 地域の市民。	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	伝統産業施設での新たな体験・交流人口の増加→様々なニーズの汲み取り→新商品開発→商品の高付加価値化→地域の魅力向上→滞在型・周遊型観光→地域経済の拡大→地域の新たな魅力創造。	産業支援団体 ボランティア (観光ガイド) 学生 (観光ガイド) 行政
⑧事業で生じる成果	伝統産業と観光とスマート技術を融合することにより、各伝統産業間の交流や観光消費による経済活性化だけでなく、来街者の地域のファンを増やし、新たな交流やコミュニケーションにより、外部人材の流入や新たな商品開発により新たな地域の魅力向上につながる。	

事業名称 3 : スマート農業・スマート農園 (農業×スマート)		
あらすじ		
南越駅周辺のフォレストシティを具現化する要素の一つである農業とスマート技術をかけ合わせ、農業の経営力強化を図るとともに、付加価値製品の生産と6次産業化により地域全体の魅力向上につなげる。		
ストーリー		
地権者の営農意向は、新幹線新駅の整備を契機として、後継者不足の原因もあり、土地の集約化への機運が高まりつつある。この契機をとらえ、農業ゾーンとして土地の集約を行うことで、営農環境の保全、景観保全とともに、スマート農業の実践が可能になる。農業の経営力強化、また付加価値製品の生産は儲かる農産業づくりであり、観光分野と連携することによって、地産地消レストランなど、地域経済の活性化、地域経済循環にもつなげる。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	人の手と自然を感じその背景にある歴史・文化を感じるまち（フォレストシティ）。	農地集約化での合意形成。スマート農業導入にかかるイニシャルコストの負担。農業従事者の高齢化、スマート農業のマネジメント、オペレーション経験不足。
②課題	後継者不足、集約・大規模経営への転換、農業のデジタル化への対応、販路開拓、農業だけで食えない。	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	農業ゾーンにおいてスマート農業を導入し、農業の効率化、高付加価値製品の生産により農業の経営力強化を図る、また6次産業のうち、地産地消の第一次産業分野の役割を担う。	
④地域資源	自然・景観、里山、水田、里山地域での取組み、農地集約の機運、駅前農地。	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	里山地域で生産されている特別栽培米や、地域産品の蕎麦などの生産、ほかAIなどのスマート技術を活用したマーケティングによる付加価値製品の生産。駅前であり、体験農園や加工体験施設、地産地消レストランと合わせて、地域の6次産業の実践の場とする。	
⑥担い手（Who）	地権者、地域の営農組合・農業法人が中心となり、福井県農業試験場や農林水産省、農機具メーカーの協力＋地域の市民＋観光事業者。	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	スマート農業の実践→農地ゾーンへの営農希望者の集約化→営農環境の保全、農業経営力強化。 スマート農業による付加価値製品の生産→農業経営力強化、6次産業化による観光分野への波及→地域経済の拡大→地域の新たな魅力創造。	地域おこし協力隊 農業分野の事業者、団体 行政
⑧事業で生じる成果	農業とスマート技術を融合することで農業の経営力強化をはかるとともに、観光分野と連携することにより地域産品の6次産業化を図ることで、地産地消レストランでの観光消費による経済活性化につながる、また、来街者の地域のファンを増やし、新たな交流やコミュニケーションにより、外部就農者の流入や新たな商品	